

国際交流基金賞

国際交流基金では、1973年以来毎年、学術、芸術、その他の文化活動を通じて、国際相互理解の増進や国際友好親善の促進に特に顕著な貢献があり、引き続き活躍が期待される個人、団体に「国際交流基金賞」を授賞し、国際文化交流の発展を奨励しています。

2008年度より国際交流基金賞と国際交流奨励賞を統合し、「文化芸術交流部門」「日本語部門」「日本研究・知的交流部門」の3部門で国際交流基金賞を授賞しています。

2010年度 受賞者



文化芸術交流部門

佐藤忠男

日本

映画評論家

日本を代表する映画評論家であり、アジア映画研究の先駆者として、映画分野における国際交流に積極的に取り組み、特に従来、紹介されることの少なかったアジア諸国の優れた作品に光を当て、世界の観客の関心を高める上で大きく貢献している。

受賞記念講演会「映画で世界を愛せるか」
2010年11月2日、国際文化会館にて



日本語部門

サヴィトリ・
ヴィシュワナタン

Savitri Vishwanathan

インド

デリー大学前教授

デリー大学において、日本語・日本史・日本政治の研究・講義を長年担当し、インドにおける日本研究、およびその基礎となる日本語教育をインドで根付かせ、後進の育成に大きく貢献した。

受賞記念講演会「インドー日本：変化する認識」
2010年10月29日、国際文化会館にて



日本研究・知的交流部門

ベン＝
アミ・シロニー

Ben-Ami Shillony

イスラエル

ヘブライ大学名誉教授

イスラエルにおける日本研究の第一人者として、日本の歴史研究において優れた業績を挙げるとともに、欧米を中心に世界各地において、日本文化の理解促進と学術交流、そして日本研究の推進に大きく貢献している。

受賞記念講演会「日本と私～日本研究の展望」

2010年10月28日、国際文化会館にて。財団法人国際文化会館との共催

地球市民賞

2010年度 受賞者

地球市民賞は、地域・コミュニティに根ざし、かつ先導的なモデルとなる国際文化交流活動を行っている団体を顕彰することを目的として、1985年に「国際交流基金地域交流振興賞」として創設され、2005年に「国際交流基金地球市民賞」と名称を改めました。これまで理事長特別表彰1団体を含め79件の個人ならびに団体に授賞しています。

アクション



子供たちが自力で夢に向かってチャレンジできる環境づくりを目指して日本とフィリピンで活動。また、現地女性の雇用創出や自立支援につなげるため、ブランドを立ち上げる。安定した事業収入を得ることで、寄付に頼らない自立した活動を実践。

多文化まちづくり工房



外国籍住民が約3割を占める神奈川県横浜市の県営団地で日本語学習サポートや防災活動を通じて多文化共生のまちづくりを目指す。外国籍の若者の居場所になるとともに、住民との交流のきっかけとなり、自治活動のモデルとして注目される。

ダンスボックス



阪神大震災において被害の大きかった新長田を拠点に、先鋭的なコンテンポラリーダンスを神戸から世界に発信する活動を行う。地域に密着した活動とともに、海外との交流を積極的に図り、異文化間の理解を深めている。